

## 件 名

埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 提出理由

埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について、別紙のとおり報告します。

## 概 要

- 1 埼玉県学力・学習状況調査（県学調）について
  - (1) 調査の概要
  - (2) 調査の特長
- 2 県学調の分析から分かったこと
  - (1) 教科に関する調査
  - (2) 質問紙調査
- 3 学力向上に係る支援と施策について
  - (1) 「総合的な支援」の主な取組
  - (2) 「重点的な支援」の主な取組
- 4 埼玉県学力・学習状況調査のC B T化について

（義務教育指導課）

# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 1 埼玉県学力・学習状況調査（県学調）について

### (1) 調査の概要

実施目的	児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する（平成27年度から実施）
調査対象	調査を希望する県立及び県内市町村立の小・中学校等に在籍する小学校第4学年から中学校第3学年までの全児童生徒（R4年度：62市町村（さいたま市を除く）・約27万人）
調査事項	児童生徒に対する調査 【教科に関する調査】 小学校第4学年から第6学年まで 国語、算数 中学校第1学年 国語、数学 中学校第2学年及び第3学年 国語、数学、英語 【質問紙調査】 学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項 学校及び市町村教育委員会に対する調査 学校における教育活動並びに学校及び市町村における教育条件の整備等に関する事項
特長	学力の伸び（経年変化）などを継続して把握することのできる調査 ・小学校第4学年から中学校第3学年までの同一児童生徒を継続して把握 ・PISA（国際学力到達度調査）と同様の調査手法（項目反応理論）を採用
県外の実施状況	108市町村で調査を実施（令和4年度） 約14万人の児童生徒が受検

# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 1 埼玉県学力・学習状況調査（県学調）について

### (2) 調査の特長（学力の伸びが明確に示される）

本調査では、学力を「学力のレベル」として提示している。

小学校第4学年から中学校第3学年までの全ての問題に難易度を設定することで、学力のレベルを測定している。

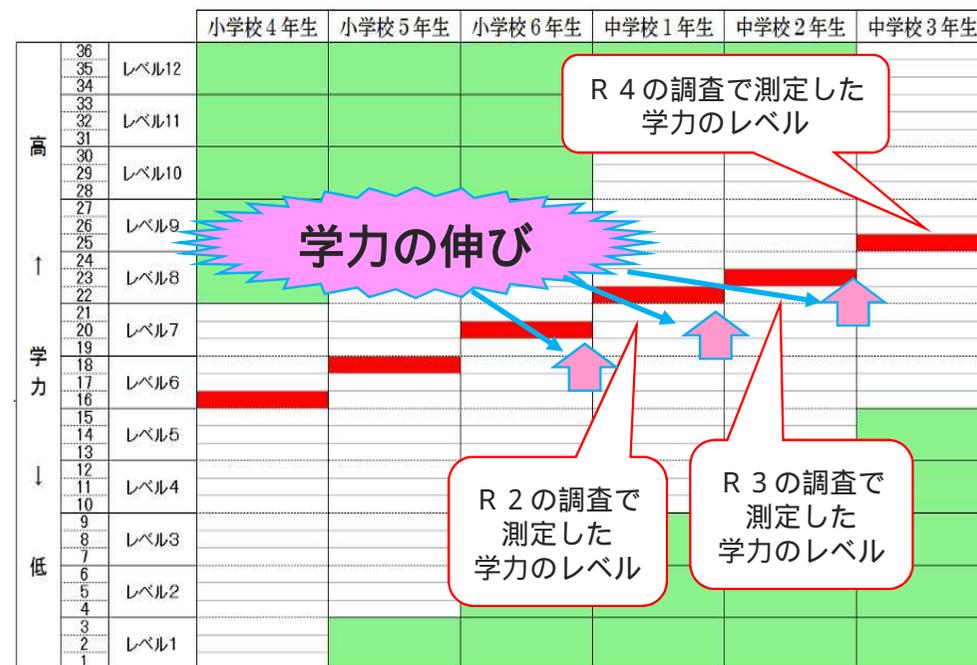
#### 本調査における「学力のレベル」の考え方

- ・「どのくらい難しい問題を解く力があるか。」を学力のレベルで表している。レベルが上がるほど、難易度の高い問題を解く力がある。

#### 本調査における「学力の伸び」の考え方

- ・年度間の「学力のレベルの差」を学力の伸びと捉える。

学力のレベルは、36段階（12レベル×3層）で設定している。

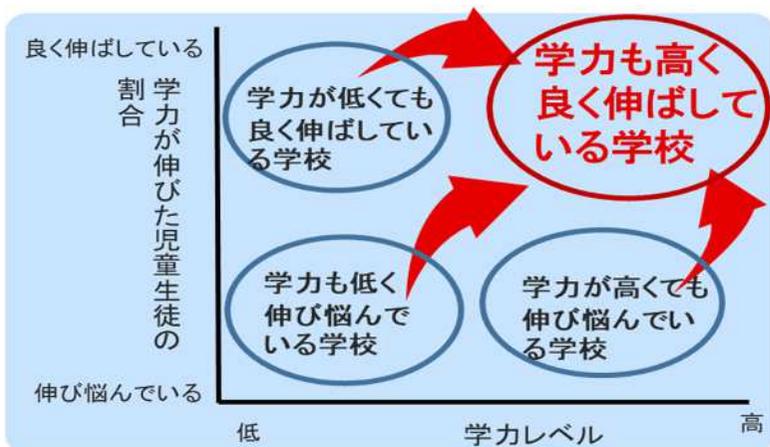


# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

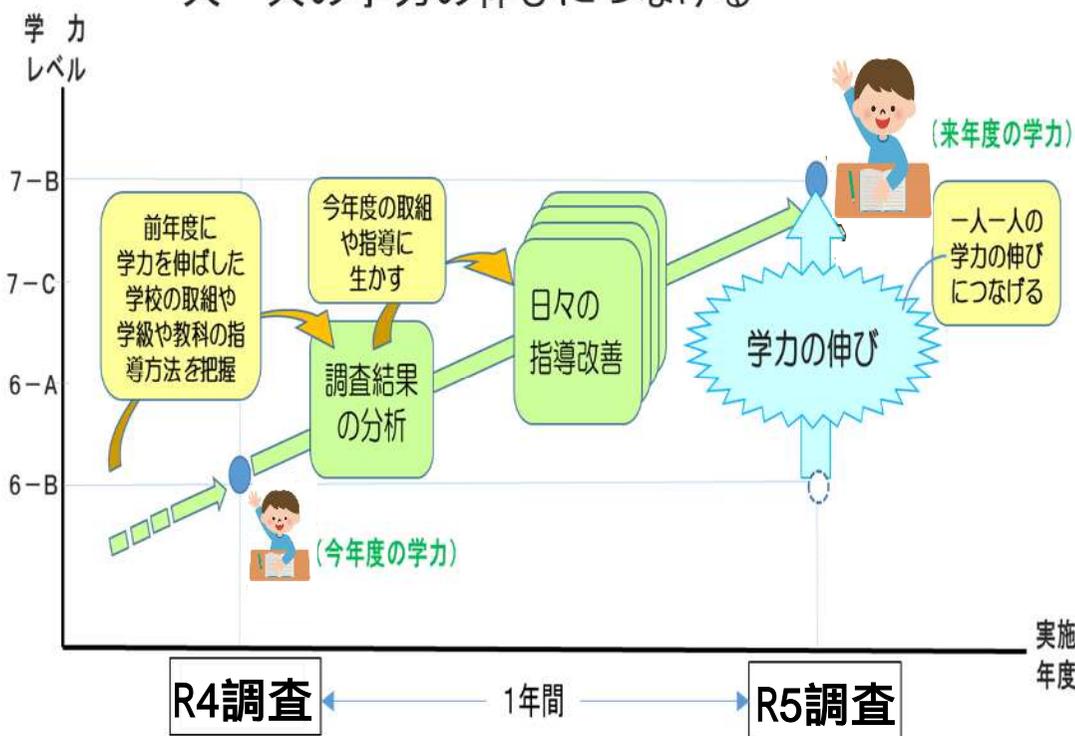
## 1 埼玉県学力・学習状況調査（県学調）について

### (2) 調査の特長（学力の伸びが分かることで、学力を伸ばした取組や指導方法が共有できる）

学力を良く伸ばしている学校が分かる



学力を伸ばした取組や指導方法を共有し、一人一人の学力の伸びにつなげる



学力を良く伸ばしている学級や教科が分かる

前年度のクラス	「学力が伸びた児童」の割合	
	国語	算数
5-1	73.4%	96.5%
5-2	91.8%	75.1%

**データに基づく学校・教員の授業改善PDCAサイクルの確立**

# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 1 埼玉県学力・学習状況調査（県学調）について

### (2) 調査の特長（非認知能力や学習方略にも注目）

認知能力...いわゆる学力であり、たし算、漢字の読み書き、文章題、図形の把握などができる力

非認知能力...認知能力ではない能力全般

（県学力・学習状況調査で測っている非認知能力の例）

自制心	イライラしない、心の平静を保てる など
自己効力感	自分への自信、自己肯定力 など
勤勉性	やるべきことをきちんとやる など
やりぬく力	粘り強い、根気がある など
向社会性	他者を助けようとする など

学習方略...学習の効果を高めるために子供が意図的に行う活動

#### 柔軟的方略

学習の仕方を自分の状況に合わせて柔軟に変更していく活動

<状況> 勉強の順番を変える、分からないところを重点的に学習するなど

#### 5つの方略に分類

#### 作業方略

ノートに書く、声に出すといった、「作業」を中心に学習を進める活動

<状況> 大切なところを繰り返し書くなど

#### プランニング方略

計画的に学習に取り組む活動

<状況> 勉強を始める前に計画を立てる など

#### 努力調整方略

「苦手」などの感情をコントロールして学習への動機を高める活動

<状況> わからないところもあきらめずに継続して学習するなど

#### 認知的方略

より自分の理解度を深めるような学習活動

<状況> 勉強した内容を自分の言葉で理解するなど

# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 2 県学調の分析から分かったこと

### (1) 教科に関する調査（令和4年度県学調結果の分析より）

どの学年も過去の同学年と同等のレベルに達している。  
 ほぼ全ての学年・教科で、学年が上がるごとに着実な「学力の伸び」が見られる。

県学調結果「学力のレベル」の経年変化（平成29年度から令和4年度の6年間）

国語

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	16 → 18 → 20 → 22 → 23 → 25					
現中2	16 → 17 → 20 → 22 → 23					
現中1	15 → 18 → 20 → 22					
現小6	17 → 18 → 21					
現小5	18 → 18					
現小4	16					

縦に見ることで、どの学年もほぼ同様のレベルに達していることが分かる。

今年度の数値

算数・数学

学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3
現中3	14 → 16 → 18 → 20 → 22 → 24					
現中2	14 → 17 → 18 → 20 → 22					
現中1	14 → 16 → 19 → 20					
現小6	14 → 17 → 18					
現小5	15 → 16					
現小4	14					

横に見ることで、毎年度どの学年も着実に学力が伸びていることが分かる。

今年度の数値

英語

学年	中2	中3
現中3	26 → 29	
現中2	26	
現中1		
現小6		
現小5		
現小4		

今年度の数値

学力のレベルは、36段階（12レベル×3層）で設定している。

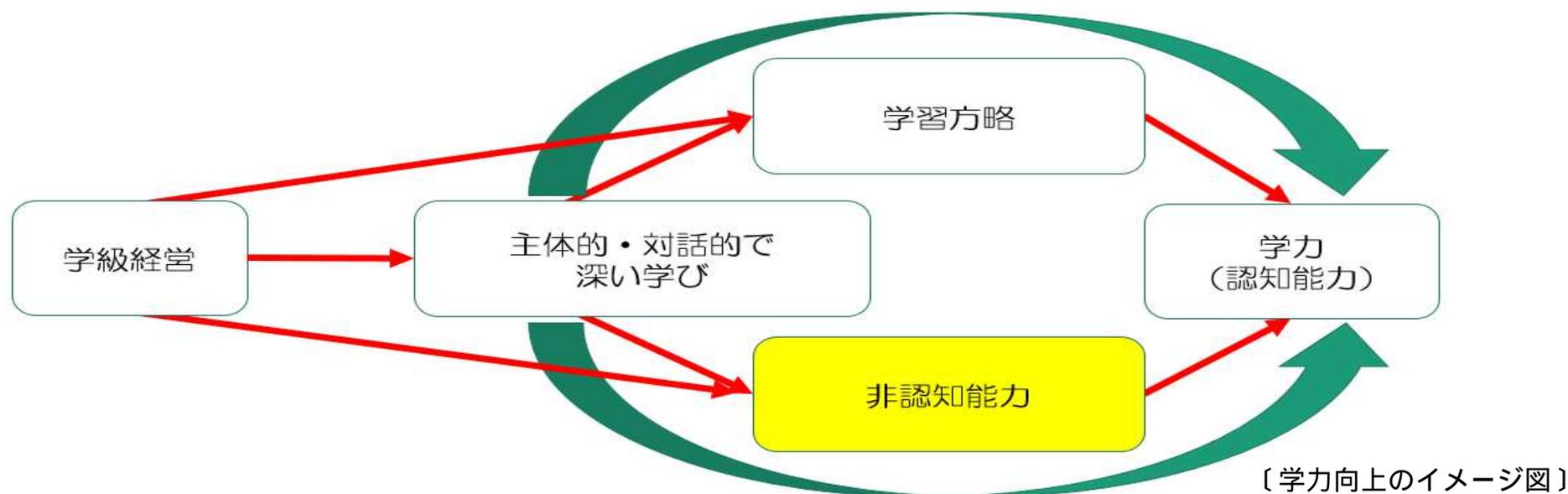
## 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

### 2 県学調の分析から分かったこと

#### (2) 質問紙調査（平成28年度～令和元年度データ活用事業より）

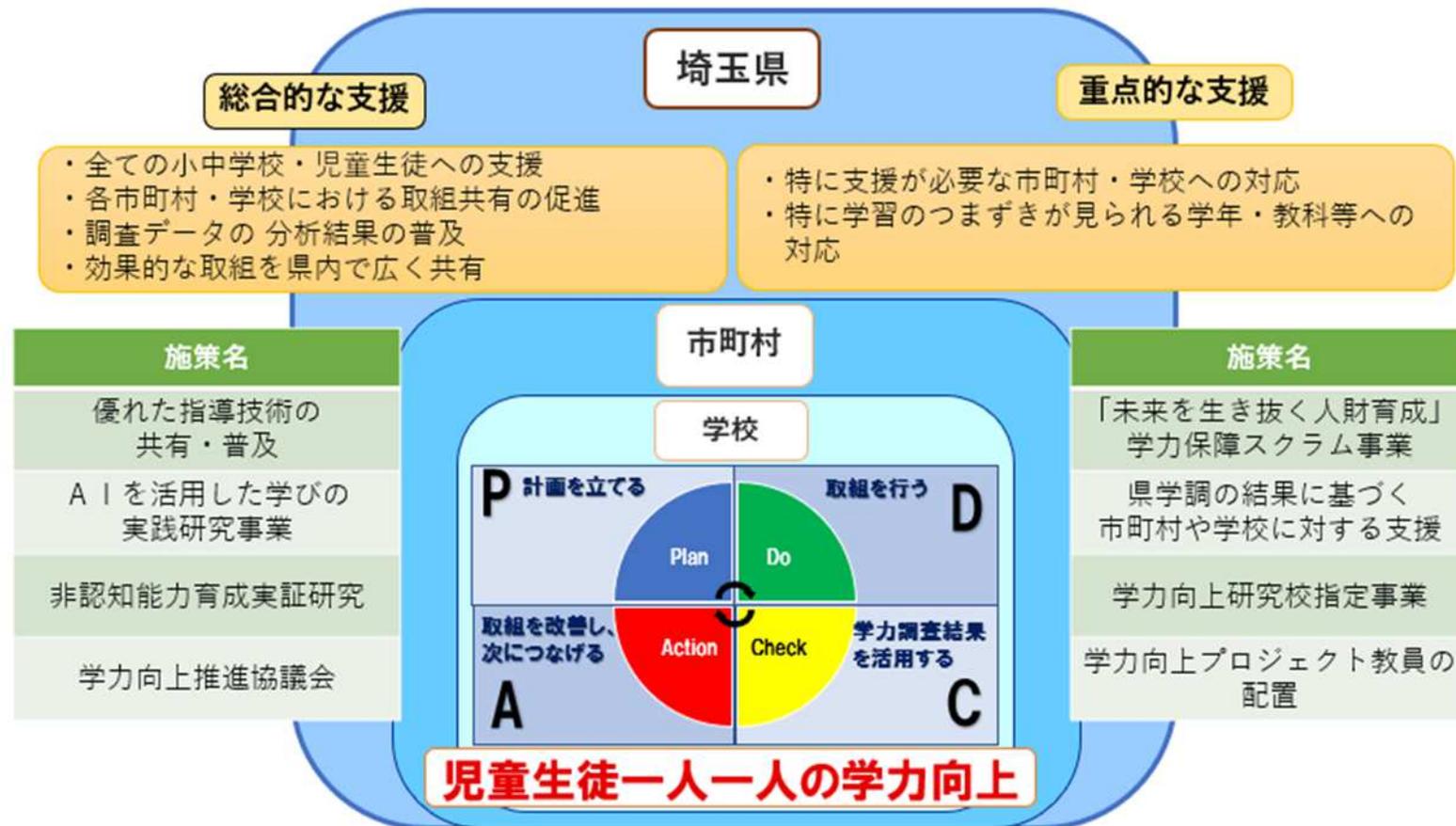
「主体的・対話的で深い学び」の実施に加えて、「学級経営」が、子供の「非認知能力」「学習方略」を向上させ、子供の学力向上につながる。

学力の向上と「非認知能力」は、強い相関関係にあり、「非認知能力」を伸ばすことによって、子供の学力向上につながる。



# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 3 学力向上に係る支援と施策について



# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 3 学力向上に係る支援と施策について

### (1) 「総合的な支援」の主な取組

#### 優れた指導技術の共有・普及（映像作成）

#### 事業概要

県学調結果から子供たちの学力を伸ばしている教員の授業を選定

R5 クラス	伸びた児童の割合	
	国語	算数
5-1	73.4%	96.5%
5-2	93.1%	75.1%

授業を撮影し、授業のポイントや、大学の教授等による解説を付加した動画を作成



ホームページで公開された動画を校内研修や年次研修等で活用



#### 動画イメージ

<p>メイン画面</p>	<p>専門家による解説</p> <p>○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○ ○○○○○○○○○○</p>
<p>場面・発言テロップ：ポイントとなる教員、児童生徒の発語</p>	<p>サブ画面</p>

#### 実施状況

- 映像資料作成：3本（令和5年度予定）  
国語(小2)・算数(小2)・外国語活動(小3)
- 累計作成資料：53本（令和元年度～令和4年度）  
（国語、算数・数学、外国語活動・英語、特別活動等）
- 累計視聴回数：38,515回（令和5年3月31日現在）

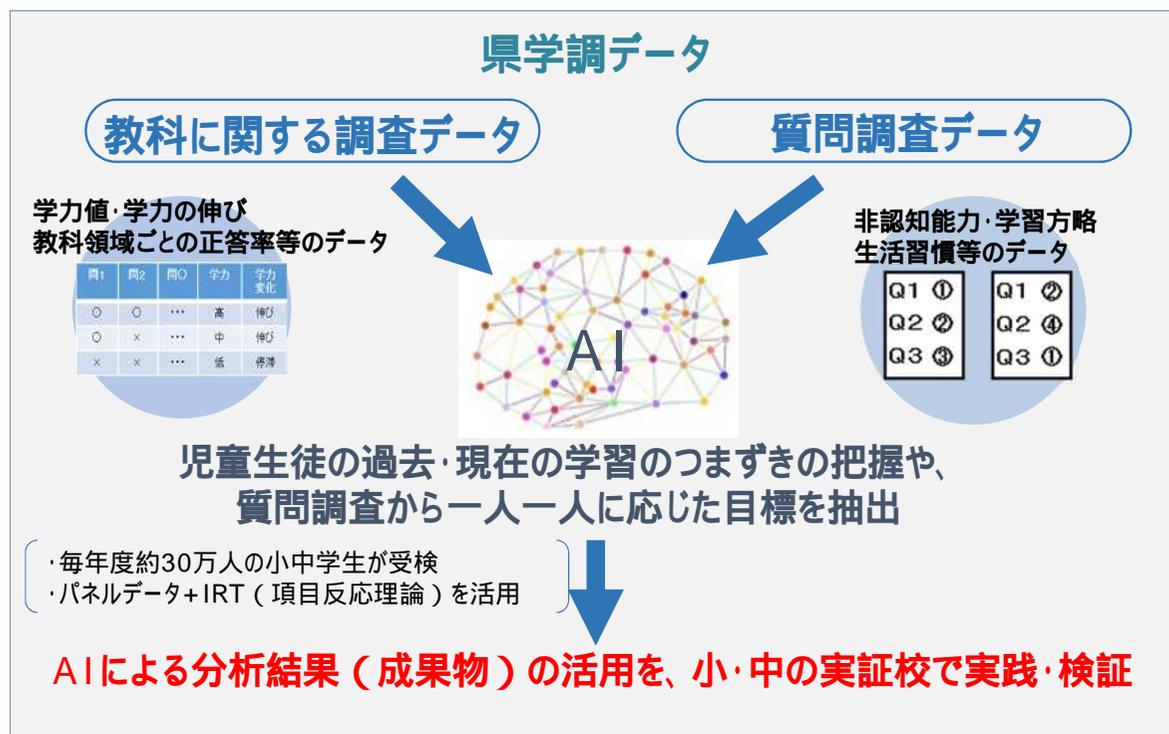
# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 3 学力向上に係る支援と施策について

### (1) 「総合的な支援」の主な取組

#### AIを活用した学びの実践研究事業

##### 事業概要



##### 成果物

#### 個別アドバイスシート（児童生徒向け）

##### 学力向上のためのポイントの確認

- つまずき分析
- 県学調の結果・学習に対する意識
- 生活習慣改善のための月間目標



#### 学級別アドバイスシート（教員向け）

##### 児童生徒とのコミュニケーションツール

- 児童生徒のつまずき等の確認
- 児童生徒の月間目標に対するフィードバック



#### 個別学習教材（児童生徒向け）

##### 一人一人のつまずきに応じた学習教材

- 学習教材の提供



# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 3 学力向上に係る支援と施策について

### (1) 「総合的な支援」の主な取組

#### AIを活用した学びの実践研究事業

#### 個別アドバイスシート（つまずき表示）の画面例

今年度の県学力調査であなたが間違えた問題に対し、強く関連している過去の問題についてAIが分析をしています。ピックアップした最新の問題に強く関連している過去の問題を解くことで、つまずきを解消します。

ピックアップしたおすすめの問題  
立体の体積を求める

問題を解く 関連した問題を全て表示する

前の問題 次の問題

小6  
小5  
小4

● ... 正解した問題  
✕ ... 不正解だった問題  
★ ... 復習済みの問題

ドットをクリックして問題を表示し、復習してみましょう。

クリックすると、右の画面に遷移する。

#### 個別学習教材の画面例

【小5で学習する算数】県学調復習シート等 > 問題 >

問題2 1点

下のような形の体積を求めましょう。

答え:  cm<sup>3</sup>

アカウント  
ダッシュボード  
コース  
ヘルプ

県ホームページで公開している県学調の復習シートの問題（算数・数学、全学年）を基に搭載

# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 3 学力向上に係る支援と施策について

### (1) 「総合的な支援」の主な取組

#### 非認知能力育成実証研究

#### 研究目的

非認知能力の一つである「自己効力感(自分に自信をもつこと)」や「向社会性(他の人を思いやる気持ち)」を育成する。

#### 実証研究校

(令和5年度)

- ・対象市町村等：5市町・25校
- ・対象児童：小学校第4学年～第6学年



(令和4年度)

- ・対象市町村等：5市町・38校
- ・対象児童：小学校第4学年～第6学年

#### 研究内容

「**こころあっぷタイム**」プログラム(全12回)  
キャラクターやマンガを用いた「おもしろい！」  
と思って学べるワークシート教材を活用した体験  
活動(グループワーク)中心のプログラム  
認知行動療法の手法を取り入れた構成となっており、  
プログラムの手法を学んだ学級担任が実施する。



#### アンケート(児童)

6月・3月・次年度の3回実施(1回10～15分)

質問内容

例：自分に自信をもつ(自己効力感)  
相手の気持ちを考える(向社会性) など

# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 3 学力向上に係る支援と施策について

### (2) 「重点的な支援」の主な取組

「未来を生き抜く人財育成」学力保障スクラム事業



#### 実施状況

(令和5年度)

- ・実施校：小学校10校
- ・訪問予定回数：10回

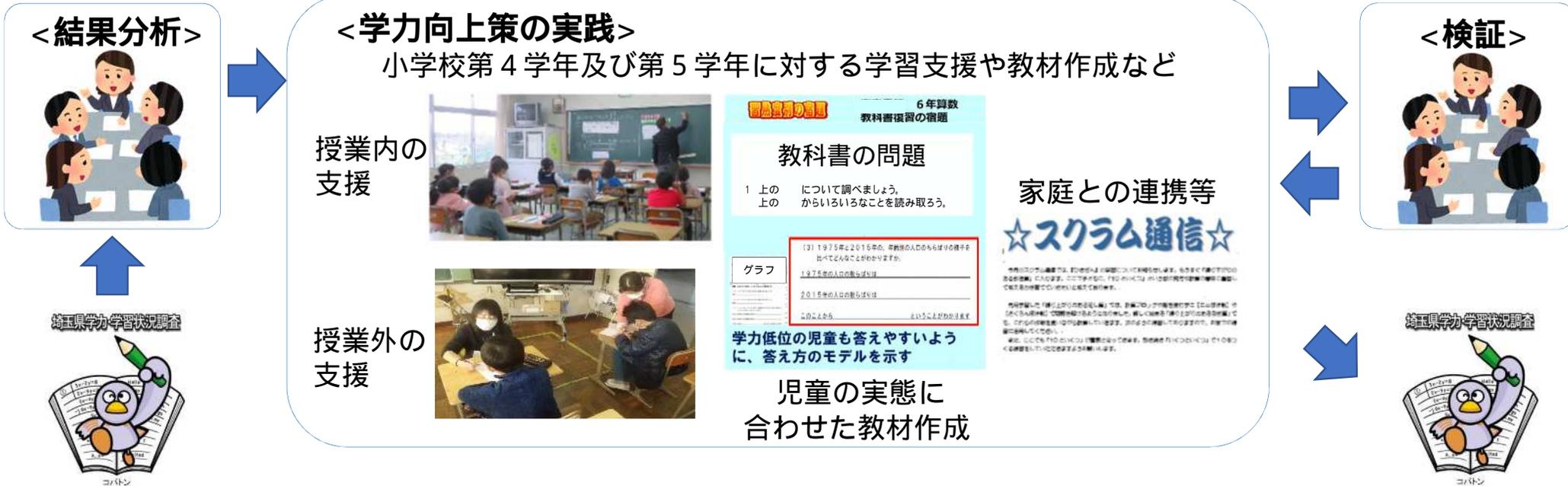
(令和4年度)

- ・実施校：小学校10校
- ・訪問数：10回

#### 事業概要

家庭の経済状況などから学力に課題を抱える児童の学力向上を図るため、学校における教育的支援の方法を研究・実践

#### 実施校の取組内容



# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 3 学力向上に係る支援と施策について

### (2) 「重点的な支援」の主な取組

県学調の結果に基づく市町村や学校に対する支援



#### 事業概要



学習状況調査結果  
埼玉県学力・学習状況調査  
全国学力・学習状況調査

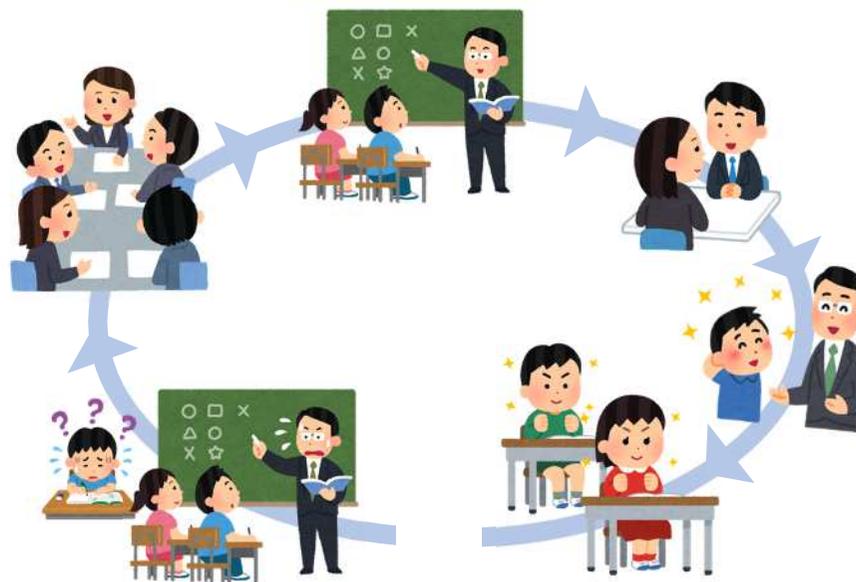
市町村や学校を選定し、  
重点的に支援

当該市町村や学校の  
児童生徒の学力向上

#### 支援内容（令和5年度）

県指導主事が直接訪問

- ・ 県学調結果の分析支援
- ・ 研修会、授業研究会等の指導・助言



#### 実施状況

（令和5年度）

- ・ 実施市町村：5市町村
- ・ 実施校：17校  
（小10校・中7校）

（令和4年度）

- ・ 実施市町村：5市町村
- ・ 実施校：17校  
（小11校・中6校）
- ・ 学校訪問数：136回

# 埼玉県学力・学習状況調査結果等を活用した学力向上施策について

## 4 埼玉県学力・学習状況調査のC B T化について

令和5年度は県内の市町村（さいたま市除く）がC B T（タブレット端末等を活用した調査）かP B T（従来の紙による調査）を選択し実施

C B Tでの実施（36市町村及び県立中学校1校）、P B Tでの実施（26市町）  
令和6年度に全面C B Tでの実施予定

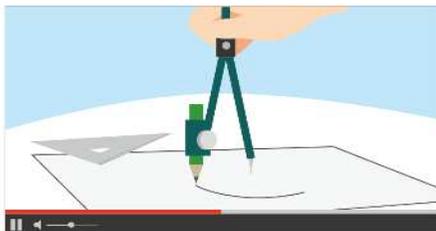
### 【C B T化の主なメリット】

映像を活用した問題など、より実際の学習場面に即した出題が可能となるとともに、正誤の状況に加えて解答時間等が明らかになる。

作図する様子を動画で出題

算数

問1 下の動画を見て、問題に答えましょう。



より細かく児童生徒のつまづいている学習内容を把握し、改善につなげていく。

### 得意・不得意な領域等を把握

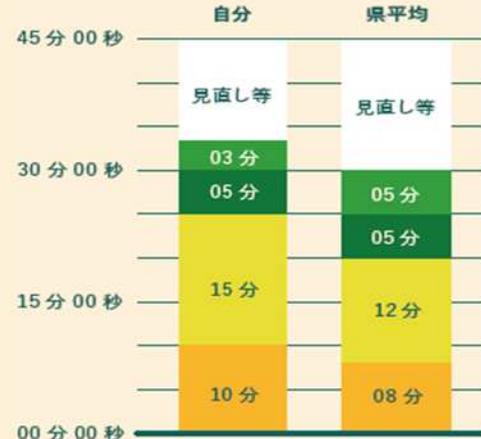
県平均と比べて時間をかけた問題

領域等	数と計算				
問題概要	小数と整数のたし算をする				
見直し回数	7	正誤	正	県正答率	45.2%
かけた時間	5分12秒	かけた時間	県平均	2分45秒	

領域等別のかけた時間

領域等	データの活用				
問題概要	棒グラフから時間を求める				
見直し回数	2	正誤	誤	県正答率	35.4%
かけた時間	2分48秒	かけた時間	県平均	1分58秒	

自分 県平均



■ ア：数と計算 ■ イ：図形 ■ ウ：測定  
■ エ：データの活用  見直し等